

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：感染症予防費

事 業 名 感染症対策衛生資材確保事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 感染症対策推進課 企画係 電話番号：058-272-1111(内3341)

E-mail：c11237@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,479 千円 (前年度予算額： 18,866 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	18,866	0	0	0	0	0	0	0	18,866
要求額	6,479	0	0	0	0	0	0	0	6,479
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

・次の感染症拡大時等に世界的需要が高まる中でも個人防護具が確実に確保されるよう、国が各都道府県の備蓄数量の基準を定めている。
・県においては、県内の入院医療機関の想定消費量の1か月分を独自に備蓄してきたところであるが、上記基準及び備蓄品の使用期限到来を踏まえ、追加の備蓄を行う必要がある。

(2) 事業内容

○医療用資材の購入

・サージカルマスク	317,400枚	・N95マスク	19,900枚
・医療用ガウン	18,500着	・フェイスシールド	17,700個
・非滅菌手袋	336,300枚		

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10 / 10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
需用費	6,479	個人防護具購入
合計	6,479	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県感染症予防計画 第六 3 (6)

「県においても、医療提供体制を維持するため、初期対応時に必要となる個人防護具の備蓄を計画的に進める。」

(2) 国・他県の状況

- ・政府新型インフルエンザ対策行動計画 物資に関するガイドライン

「主体ごとの個人防護具の備蓄水準については、以下の考え方を基本とする。

協定締結医療機関：備蓄の推進

都道府県：初動1か月分の備蓄の確保

国：2か月目以降供給回復までの間の備蓄の確保

※ 協定締結医療機関のうち病院、診療所及び訪問看護事業所については、2か月分以上の備蓄を推奨。」

(3) 後年度の財政負担

- ・各品目とも、国説明会において、「備蓄という事業の特性やこれまでの実態、企業ヒアリングを踏まえ、個人防護具の使用推奨期間は5年とすることが望ましい旨、研究班会議での報告でも示されていることから、個人防護具については、使用推奨期間を5年として備蓄を進める」ことが示されており、定期的買い替えが必要（全体の1／4を毎年購入・処分することを予定）。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・新型インフルエンザ等対策特別措置法第10条に基づく県の責務として実施する。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和10年度までに、国が定める個人防護具の備蓄水準を満たす。

※令和4～6年度は、県独自基準により備蓄を実施済み

※令和7年度からは、国がガイドラインで定める基準により備蓄を実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R6)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①備蓄水準達成率(5品目平均)	0%	-	25%	50%	100%	0%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	県独自に備蓄物資を購入 ・サージカルマスク 234,000枚 ・医療用ガウン 83,700着 ・非滅菌手袋 1,795,500枚 ・N95マスク 24,400枚 ・フェイスシールド 25,400個 ・防護服 50着					
	指標① 目標：702,000 実績：234,000 達成率：33%（マスクの旧基準ベース）					
令和5年度	県独自に備蓄物資を購入 ・サージカルマスク 234,000枚 ・医療用ガウン 83,700着 ・非滅菌手袋 1,795,300枚 ・N95マスク 24,300枚 ・フェイスシールド 25,300個 ・防護服 50着					
	指標① 目標：702,000 実績：468,000 達成率：67%（マスクの旧基準ベース）					
令和6年度	県独自に備蓄物資を購入 ・サージカルマスク 234,000枚 ・医療用ガウン 83,600着 ・非滅菌手袋 1,795,200枚 ・N95マスク 24,300枚 ・フェイスシールド 25,300個 ・防護服 50着					
	指標① 目標：702,000 実績：702,000 達成率：100%（マスクの旧基準ベース）					

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</p> <p>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
<p>(評価)</p> <p>3</p>	<p>新型コロナでの経験(個人防護具等の不足)を踏まえ、新興感染症の発生初期に対応するための物資の平時からの備蓄が求められている。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</p> <p>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
<p>(評価)</p> <p>2</p>	<p>国が基準を示す前から県独自の備蓄目標を設定し、令和4～6年度にかけて計画的に備蓄を行ってきた。</p>
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</p> <p>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
<p>(評価)</p> <p>2</p>	<p>使用期限が近づいている物品については、希望する所属に配布する等により有効活用を図っている。</p>

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項
使用期限が到来する物品について、有効な活用ができるよう計画していく必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
いつ発生するか分からない新興感染症に備え、必要な物資の確保を持続的に行うとともに、効率的な資材の活用を行っていく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	